

2018. NOVEMBER

広報 JAだてし



くみあいマーケット本店リニューアル11周年創業祭

発行 伊達市農業協同組合（営農生産部編集）

〒052-8666 伊達市末永町 74 Tel.0142-23-2181

E-mail kouhou@ja-dateshi.or.jp

<http://www.ja-dateshi.or.jp>

JA 伊達市

検索



NO.613

Japan Agricultural cooperatives

主な内容

G・GAP視察研修 in 洞爺湖町
収穫体験&BBQ交流会
女性部秋季視察研修
年金友の会パークゴルフ閉幕戦 その他

11月号

今月号のトピックス

G・GAP視察研修in洞爺湖町



G.GAP = Global Good Agricultural Practice (世界基準の農業生産工程管理)
J.GAP = Japan Good Agricultural Practice (日本基準の農業生産工程管理)

4名とG・GAP(グローバルギャップ)認証取得生産者の農薬庫や肥料庫、倉庫、作業場などを視察しました。

当日はJAとうや湖の職員の内、3件の生産者を訪問し、G・GAP認証取得に係るルールや方法を紹介していただき、質疑応答などを行いました。

厳しい規定をクリアし、認証取得したJAとうや湖管内の生産者は「GAPの取り組みをすすめることで農薬や肥料の

コストを1割程度削減できたことや、在庫管理が行き届き作業効率を上げることができた。」と取り組みの効果を話していました。

伊達市内のGAP取得者は残念ながら1件です。当JAではJGAP指導員もおり組合員のGAP取得へ向けた取り組みの支援を今後更に行っていく予定です。取り組みに興味のある方は営農指導課まで相談してください。

収穫体験&BBQ交流会

10月27日(土)、今年度3回目となる伊達市広報室と当JA共催の収穫体験事業を市内圃場で開催しました。

今回の参加者は男性6名(内農業者2名)、女性4名の計10名で、生産者の圃場でチンゲン菜の収穫体験を行いました。1つ1つ丁寧に包丁で収穫し、袋詰めまで体験し参加者は「簡単そうに見えて繊

細な作業だった。生産者の苦労を実感することができてよかった。」と感想を述べていました。

収穫体験後は伊達野菜などの食材を使った料理を参加者で作り、食事



会を行いました。伊達市農協青年部で試験栽培した「さつまいも」を提供し、調理・試食してもらい、しつとりとした食感でおいしいと大変好評でした。

地域交流としてご参加されたい方や興味のある方はぜひお気軽にお問い合わせください。

※問合せ先
…営農指導課

(☎ 232-1001)

まで



女性部秋季視察研修

JA伊達市女性部(大戸恵美子部長)では10月30日(火)に視察研修を開催し、部員16名、新規就農研修生1名が参加しました。

今年5月に丸果札幌青果と札幌ホクレン青果が経営統合した「札幌みらい中央青果株」を訪問し、市場におけるGAP推進や認証商品との価格差、価格が安定している相対販売に求められるものは何かといった説明等について熱心に耳を傾けていました。

その後、市場内を見学し他産地の出荷物や、出荷箱の形状、規格の表示方法を興味深く現場を視察していました。



午後からは「くるるの杜」を視察。自分が出荷している農産物と他の生産者との大きさ

や品質を比較したり、陳列方法等を見て、今後の販売に役立つよう真剣に見学していました。最後に千歳にある菓子店に立ち寄りパンや菓子のお土産を買い求め帰路につきました。普段の農作業から離れた仲間と家族の話や仕事のことなど会話が弾み、楽しい研修となりました。



JAの家庭雑誌

お申し込み受付中

あなたの元気が
わたしの元気

家の光

- 普通月号 税込 **617** 円
- 付録月号 (1・4・5・7・9月号) 税込 **906** 円
- 付録月号 (家計簿付12月号) 税込 **1,008** 円

加工用ポチャ

10月11日(木)に市内生産者圃場にて、加工用ポチャ「あまほく」の出荷に係る目慣らし会が行われました。

当日はホクレンの担当者から、品質に係る注意事項や出荷をできる傷の程度などの説明がありました。

参加した有珠地区の原将晴さんは「今年は例年に比べて収量・品質ともに悪く、できるだけ多く出荷したい。加工用ポチャで作業時間も削減できているので、今後も継続

あまほく



して栽培し、栽培技術等の向上に努力したい」と今後の自身の営農意欲を高めています。

東関内公共牧場下牧

10月17日(水)～19日(金)の3日間、わたり東関内公共牧場で育成牛などの下牧作業が行われました。

今年6月に預けられた牛は約5か月間で平均70kg増体しました。

預けられた乳牛は生産者のもとへ戻った後に受胎し、搾乳・繁殖牛になり、肉牛は繁殖・肉用牛になり、それぞれ活用していきます。



また、11月7日(水)には登別市公共育成牧場でも下牧作業が行われ、牛たちが生産者の元へと戻っていきます。

年金友の会

10月16日(火)～
17日(水)の2日間、JA伊達市年

金友の会では余市・小樽方面へ秋の旅行を行い、22名の方が参加されました。

1日目は、真狩村・余市町の道の駅に立ち寄り、出荷されている農産物などを見学し、積丹町にて昼食後、積丹ブルーの海を水中展望船で堪能しました。

その後余市町でニッカウチスキー工場を見学しました。

秋の旅行

宿泊は
朝里川温泉に宿泊

しゅつくりと温泉に浸かり日頃の疲れを癒していました。

2日目には小樽市のにしん御殿や芸術村、小樽運河を散策し、ニセコ町の道の駅を視察しました。

参加されたみなさんは、秋の美しい景色と美味しい料理を満喫し、とても思い出に残る旅行となったことでしょう。

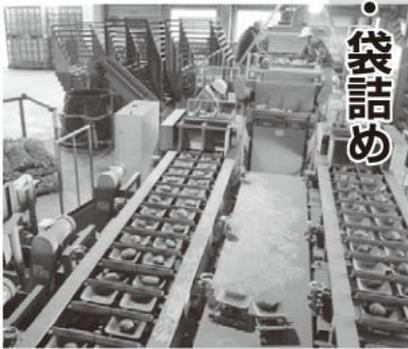


種子馬鈴薯選別

10月15日(月)～24日(水)までのうち8日間で伊達市馬鈴薯採種組合(松本喬一組合長)は集出荷場ネギ施設で種子馬鈴薯の選別・袋詰め作業を実施しました。

今年の品質は例年並みでしたが、収量は天候不順の影響で低下しました。生産された馬鈴薯はトヨシロ・ワセシロキタアカリの3品種で総生産量は155tで加工用馬鈴薯

袋詰め



としても利用されます。

また、当JA生産資材課や青果課、その他各業者へと販売され全道へ出荷されます。

農と食の
総合雑誌

地上

GOOD EARTH

お申し込みはJAへ

定価(税込み)／普通月号……606円
付録付号(5・11月号)……668円





年金友の会

年金友の会パークゴルフ

閉幕戦

10月13日(出)、伊達市関内パークゴルフ場にて平成30年度JA伊達市年金友の会パークゴルフ閉幕戦が開催されました。

今年度の最終戦は涼しい秋晴れのスポーツ日和で参加した21名の方々が楽しくプレーしました。

また、結果は以下の通りとなっております。

○パークゴルフ

男性の部

- 1位 佐藤 繁
- 2位 丹野 征之
- 3位 小泉 勇一
- 4位 紺野 幸男
- 5位 伊藤 文夫

女性の部

- 1位 篠原ミヤ子
- 2位 佐藤ハルミ
- 3位 紺野 ヤエ
- 4位 伊藤 喜枝
- 5位 荒 厚子



ホールインワン賞

堀籠 次男

ブービー賞

男性

東海林信雄

女性

細川夕力子

第8号

各課紹介

営農生産部 青果課

- 課長 森田 貴宏 (下段左から3人目)
- 係長 梶田 岳史 (下段左から4人目)
- 主査 水戸 義昭 (下段左から5人目)
- // 藤波 昌美 (下段左から2人目)
- 係 駒井 秀昭 (下段左から6人目)
- // 山田 司 (下段左)
- // 林 大輔 (上段左から3人目)
- // 寺田 弘美 (上段左から2人目)
- // 吉崎 信子 (上段左から5人目)
- 係(臨時) 加藤 麻里 (上段左)
- // 浅水美紀子 (上段左から6人目)
- // 齋藤久美子 (上段左から4人目)



コメント (森田課長)

野菜の産地として経営継続していくため農家所得の向上や労働環境の改善を重点に振興作物(トマト・キャベツ・ブロッコリー・冬野菜)の推進や高糖度トマトのブランド化、冬野菜ハウスの活用、作付面積拡大と生産力・販売力強化を目指しています。

広報担当より

JA伊達市の魅力は野菜!その野菜を取扱っている青果課は伊達野菜を全国へと発信しています。多忙な毎日でも、生産者の皆様や消費者の皆様を第一に考え、安全で安心な野菜を提供できるよう努力しています!

今回は購買部生産資材課をご紹介します。

農薬の安全使用
講習会開催の
お知らせ

- 開催日 平成30年12月20日(木)
- 時間 午前の部 10:00~
午後の部 13:30~
- 場所 JA伊達市本所2階会議室
- 講師 緑の安全推進協会講師

伊達市農務課・JA伊達市

農協法公布記念日にあたっての組合員・役職員へのメッセージ



北海道農業協同組合中央会

会長 飛田稔章

このたびの災害により被害を受けられた皆様ならびにそのご家族の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興へ向けて、JAグループ北海道は組織を挙げて全力で支援に取り組んでまいります。

さて、昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が公布され、今年で71年を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的社会的地位

の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自立・自衛」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、総合事業を展開しながら今日に至っております。

例えば安全・安心な食品の生産と、豊かな生活に役立つ購買品の供給、地域の豊かな暮らしと経済活動のために寄与する金融事業、総合的な暮らしの保障のための共済事業、健康な日常生活を営むための医療・福祉事業のほか地域社会に貢献するための様々な社会的取組みも行なわ

れております。地震や風水害による大規模災害が発生した際には、各協同組合が物資の支援、ボランティアの派遣、募金活動等を展開することにより、被災地域の復旧・復興支援に大きな役割を果たしております。

本年9月の災害時にも、組合員・JA・連合会等の間における農業機械・発電機等の融通や、被災地への人的・物的支援、被災地農産物の選果受入など、組織内・外を問わずない助け合いの精神による支援活動・行動に対し、敬意とともに、協同組合の力を改めて認識させて頂いたところで

このように協同組合は社会と地域の人々の暮らしのために、永年に亘って多くの分野でその役割を発揮してきているのです。

そのような中、2016年

に「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録され、更に本年4月には我が国の農協、漁協、生協労働金庫、森林組合等の協同組合が、協同組合間の連携によって力を結集し、地域課題の解決を目的として日本協同組合連携機構（JCA）が発足したところで

また、第29回JA北海道大会では、前回大会で設定した将来ビジョンである「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現」を継承し、「農業所得の増大と、多様な担い手の確保・育成」と「次代につなげる協同組合の価値と実践」に向けて、JAグループが一体となって取り組むことと致しました。

農業協同組合に集う組合員、役職員の皆様は、このように世界的に評価され、社会的意義のある協同組合の仲間であることを誇りとしながら、協同活動の輪（食と農でつながるサポーター550万人づくり）を広めて頂きたいと考えております。

このことが新自由主義経済への対立軸としての協同組合の存在意義を高め、永年に亘り先人が築き上げた地域農業並びに地域社会の基盤をさらに発展させ、持続可能な農業へと繋がるものと確信しております。

最後になりますが、JAグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様から夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えることと、地域農業とJAの発展に全力でサポートすることをお誓い申し上げ、農協法公布記念日にあたってのメッセージと致します。

そのような中、2016年

に「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録され、更に本年4月には我が国の農協、漁協、生協労働金庫、森林組合等の協同組合が、協同組合間の連携によって力を結集し、地域課題の解決を目的として日本協同組合連携機構（JCA）が発足したところで

J Aグループ通信

J Aグループ北海道×コンサドーレ札幌

『北海道応援マッチ』特集号

毎月、J Aグループ北海道の連合会・中央会の活動を紹介しております。

今日は、平成30年9月29日に北海道コンサドーレ札幌ホームゲーム（Vサガン鳥栖戦）をJ Aグループ北海道と北海道コンサドーレ札幌による『北海道応援マッチ』として開催しましたので、会場での各取り組みをご紹介します。

J A北海道 中央会



*J Aグループ北海道は、北海道コンサドーレ札幌とともに、スポーツを通じて皆さんの皆さまに食や農業の大切さを伝える活動を行っています。

9月29日のサガン鳥栖戦はJ Aグループ北海道と北海道コンサドーレ札幌による『北海道応援マッチ』として開催しました。

来場者に全道各地のJ A特産品を550名様にプレゼントする企画や、J Aグループ関係のブースを回るスタンプラリー抽選会「J A 2 M P」チェックインキャンペーン



ペーンを実施しました。試合はコンサドーレの劇的な勝利に終わり、J Aグループ北海道よりMVP賞の贈呈を行いました。

チームのさらなる活躍を期待し今後も北海道を共に盛り上げるパートナーとして応援して参ります。

J A北海道 信連



J Aバンク北海道では、会場で「口座開設を予約して頂いた方」に抽選でコンサドーレ



観戦券または、コンサドーレオリジナルマフラーを、「ちょリスと一緒に撮影し、SNSに投稿して頂いた方」にちょリス・ブランケットをプレゼントしました。

小野伸二選手も応援に駆け付け大盛況となり、多くのコンサドーレサポーターの方にJ AバンクをPRすることが

できました。

ホクレン



ホクレンは来場者先着2000人に顆粒片栗粉「ころりんぱっ」を配布したほか「ホクレン大収穫祭」の告知及び



全国発送のチラシを配布し来場者に対してPRを行いました。

ブースには北海道コンサドーレ札幌の田中雄大選手藤村怜選手、クラブマスケットの「ドレくん」が相次いで応援に駆け付け、配布を手伝うとともに、快く握手などに応じ、集まったサポーターたちを喜ばせました。

J A共済連 北海道



J A共済連北海道は、地域貢献活動の紹介チラシを作成し粗品とあわせて配布すること

で、交通安全を呼びかけしました。

また、小さいお子さまにはひとのわぐまのおなかを的にし、ボールを投げていただくゲームで楽しんでいただき、大盛況となりました。来場者の皆さまにJ A共済連の交通安全にかかる活動を知っていただくことができました。

J A北海道 厚生連



J A北海道厚生連からは配置薬課より「野菜酵素青汁」と「草筒譜Ⅲ（入浴剤）」の配布を行い、稲本選手もブースにかけつけてくださり、多くのサポーターの皆さまに集まっていた大盛況となりました。今後北海道コンサドーレ札幌の活躍を応援していきたいと思います。



老後の備えは **農業者年金** で安心!

女性農業者の皆さんへ あなた自身の年金を!

老後の備えは万全ですか?

現在65歳の日本人の平均余命は、
男性が19年(84歳)、
女性が24年(89歳)です。
女性の老後は男性以上に長い道のりです。

女性農業者の長い老後を
しっかりサポートします

農業者の老後の生活の収入は、 国民年金+農業者年金が基本です!

国民年金の支給額は夫婦お二人で
月額最高約13万円です。
一方、高齢農家の家計費は夫婦お二人で
23~24万円が必要となるデータがあります。
→月額約10万円不足!

国民年金の不足分を
しっかりカバーします

家族経営協定を結べば
保険料の国庫補助も
受けられます。

認定農業者で青色申告をしている方と
家族経営協定を結ぶ配偶者も
保険料の国庫補助が受けられます。

女性の農業経営への
参画をしっかりと
応援します!

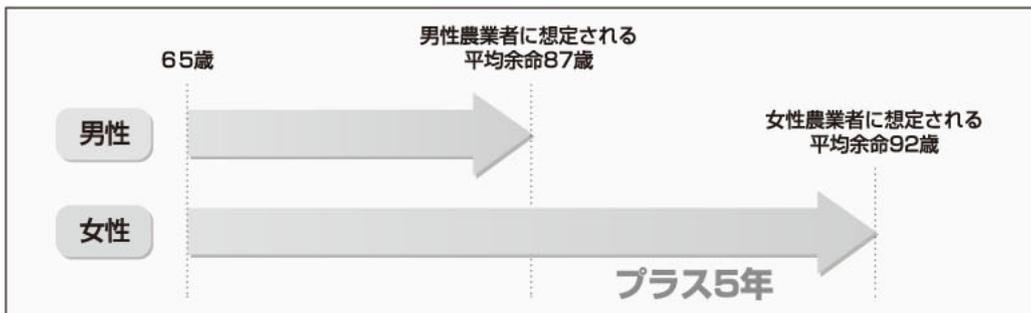
農業者年金の加入には
農地の権利名義は
要りません。

60歳未満の国民年金第1号被保険者
(納付免除者を除く)であって
年間60日以上農業に従事している方は
誰でも加入できます。

女性農業者の
老後の安心は
自分で確保!

女性は男性より+5年長生き 自分自身の年金を準備しましょう

一般的に女性は男性より長寿です。年金が重要なことは男性も女性も同じですが、女性はより長い老後に備えて、自分自身の年金を準備することが重要です。



※農業者年金加入者について想定している平均余命

●詳しくは営農指導課又は、伊達市農業委員会へご相談ください。

理事会のうごき

第24回理事会…平成30年10月26日(金)

- ▶クミカン供給限度額及び貸越限度額の変更について
- ▶JA共済コンプライアンス点検結果及び改善方針の概要について
- ▶第2・四半期自己監査結果について
- ▶諸規程・要領の一部改正について
- ▶平成30年北海道胆振東部地震・台風21号からの復旧に向けた要請について
- ▶行政との意見交換会の実施について

伊達市土づくり推進協議会からお知らせ

JA伊達市正組合員の皆様を対象に土壌分析を通年受け入れています。

定期的な土壌の健康診断を行いましょう。

対象(正組合員)	分析料	助成額
伊達市	2,000円	1,000円以内
登別市・室蘭市(熱抽出室素は+500円)		500円以内

- 特に水稲やハウス等施設においては定期的な分析を推奨しています。
- 畑作や転作圃場についても2～3年に1度は分析が必要です。

JA伊達市正組合員の皆様に有効に利用していただき、良質な土壌づくりで安心・安全な作物生産をしていきましょう。

詳細や疑問点はお問い合わせください。

<担当者>

事務局 伊達市土づくり推進協議会

連絡先 伊達市農業協同組合

営農指導課 高橋まで (TEL 0142-23-2181)



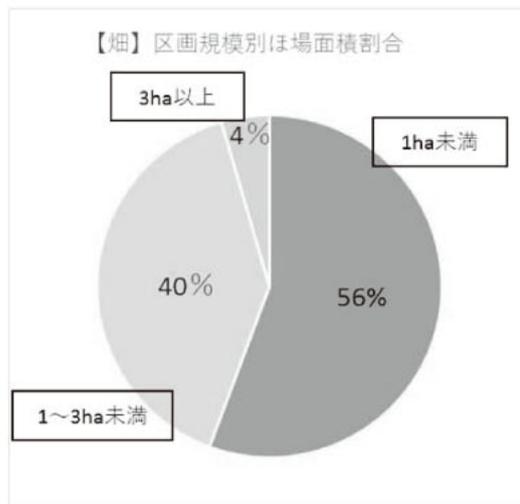
未来を変える。 みんなで作る。

国営緊急農地再編整備事業 「伊達地区」 Vol.17

～関内・長和地区の農地の現状 part2. 畑編～

先月号では、国営緊急農地再編整備事業の対象地区である関内・長和地区の水田の現状を紹介しました。今月号では、両地区の畑の現状について紹介します。

関内・長和地区の畑は、下表のとおり1ha未満のは場が面積ベースで約6割を占めているほか①傾斜地が多い、②石礫を含んでいる、③水はけが悪いなどのさまざまな問題を抱えています。



区画規模	1ha未満	1～3ha未満	3ha以上	合計
面積 (ha)	556.33	398.2	45.02	999.55
割合	56%	40%	4%	100%

国営緊急農地再編整備事業では、ほ場の集積や区画拡大と併せて、除礫工事や暗渠排水の整備が可能です。

農業経営の安定化や地域農業の発展のためにも、効率的に耕作できるような農地を整備していくことが必要になっています。

◆問い合わせ先

伊達地区国営緊急農地再編整備事業

促進期成会事務局

(伊達市経済環境部農務課農地再編推進室内)

TEL0142-23-3331 (内線 539)